

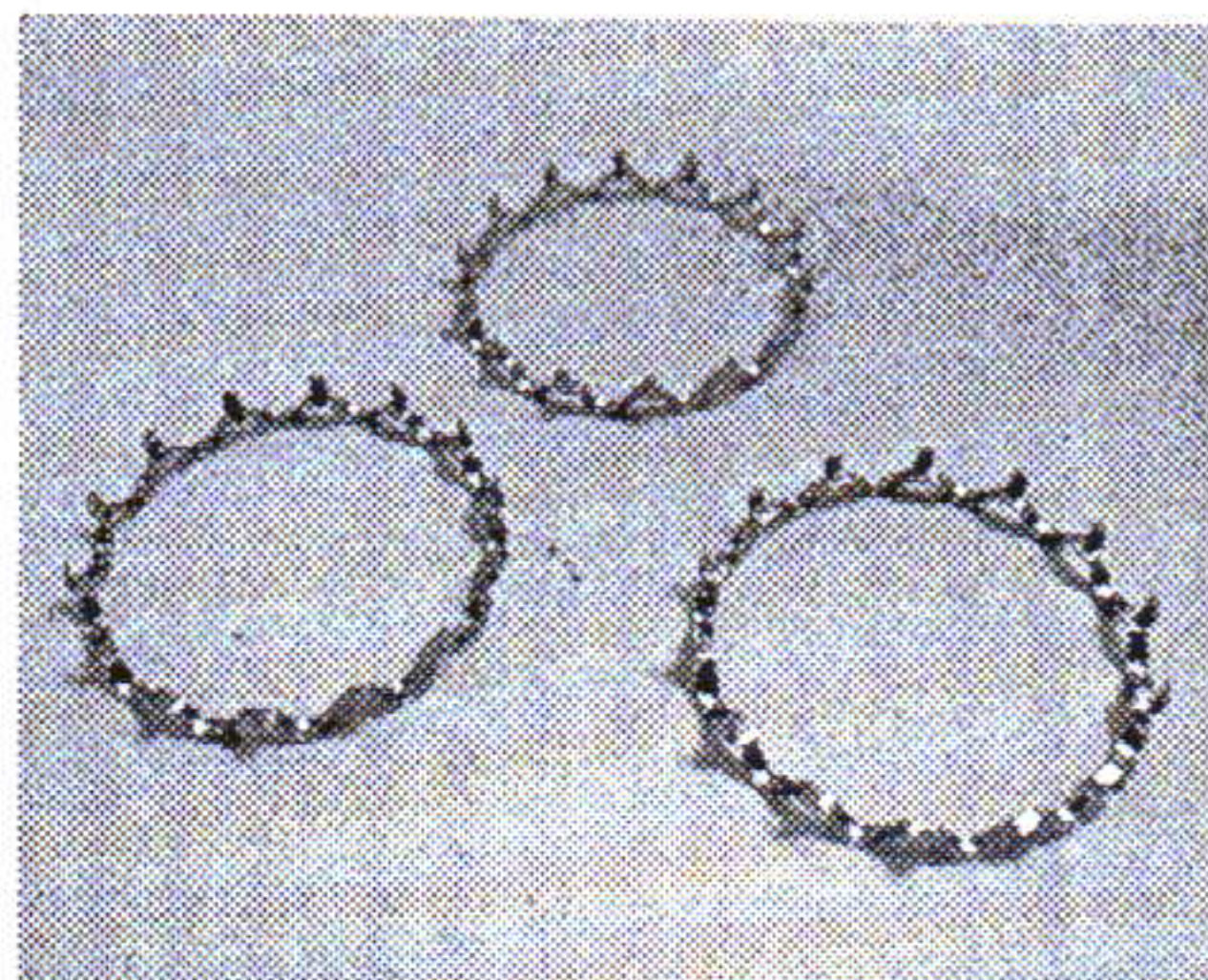
インドネシアに新工場

軸受保持器 月産200万個

来春稼働 高井精器、コスト低減

【横浜】高井精器(神奈川県藤沢市、高井研吾社長、0466・27・6201)は総額4億円を投じ、インドネシアに軸受保持器の新工場を建設する。2011年春に稼働の予定。月産200万個の計画で、主に日本精工の現地法人に納める。現地生産によるコストダウンと納期短縮を図る。

新工場は現地法人のタカイセイキインドネシアが運営する。現法の資本金は120万ドル(約1億320万円)。新工場はブカシ県のMM2100工業団地に建設。敷地面積1万平方メートル、建物は2階建てで延べ床面積2000平方メートル。同団地には日本精工のグループ会社のNSKベアリング・インドネシアがあり、軸受保持器の一つである「爪付波形保持器」を新工場で生産する。



新工場で生産する「爪付波形保持器」

る「爪付波形保持器」を納める。まずプレス加工以降の研磨や洗浄、品質検査などの工程を行うための研磨機を導入する。12年に射出成形機、13年にプレス機を導入し、一貫体制を整える計画。従業員は本社から2人を派遣するほか、現地で50～60人採用する。将来の中核的人材を確保するため、中小企業国際人材育成事業団(アイム・シ

ヤパン)を活用し、20代のインドネシア人技術者4人を採用。今秋から日本の工場ではプレス加工や射出成形の技術を習得する。

せ、インドネシアの新工場に射出成形機やプレス機を導入する時期に合わせ、現地の業務に就く。高井精器の製造拠点は神奈川県内の2拠点、94年に中国上海市に設立した上海高井精器の合計3拠点で、現在月間6000万個の軸受保持器を製造している。国内は新製品開発や小・中ロット製品の製造を中心とし、上海とインドネシアで大口の量産品を生産する。